

様式（第3条関係）

東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都町田市鶴間 3-3-7 ドレッセタワー南 町田グランベリーパーク1階
園名	ベネッセ南町田グランベリーパーク保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光（2歳児クラス）

<テーマの設定理由>

日差しによって部屋の中に映し出される影や色に興味を持つ姿があったことや、ひかりテーブル遊びへの興味が広がっていった為。

2. 活動スケジュール

10月初めてのひかりテーブル遊び
11月手作りトンボのメガネを使って光テーブルあそび
12月ひかりテーブルやトンボのメガネ遊び
1月 行事にてひかりテーブルやトンボのメガネあそび

3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

準備した素材や道具：ひかりテーブル、身近な玩具（布・ペットボトル色水・クリアな積み木）、虫の標本、手作りのトンボのメガネ
環境設定：空間を暗くすることが出来る場所

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ひかりテーブルと様々な玩具を用意し、3～4名ずつ自由に遊んだ。
カラーセロハンを使ってトンボのメガネ作りを行い、戸外では日差しを使って光の影遊びを行い、室内ではひかりテーブルでも楽しめるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

トンボのメガネではひかりテーブルの上で重ねて写る色の変化を楽しむ姿があった。戸外では地面に映る光を見ることよりもメガネに目を当てて、メガネ越しに見える景色を「ぜんぶあおだ！」など楽しむ姿もあり、地面に反射した光には保育者が知らせないと気づかない姿もあった。3原色（青・赤・黄色）のセロハンを子どもたちに選んでもらってメガネを作り、子どもたち同士でメガネを重ね合わせて色の変化に気づいて知らせる姿もあり、色と色の組み合わせへの興味も広がったように感じた。ひかりテーブルでは透明の積み木を重ね合わせると色が変わることに気づいて様々な組み合わせを試す姿もあった。積み木がきれいに光るのでお家やピアノに見立てて遊ぶ姿もあった。色のついたジュースをテーブルの上に置くと、ジュースの色が綺麗に光る様子も楽しんでいた。ひかりテーブルでは子どもたちが主体的にやってみようとする姿を見守り、遊びが子どもたちの中で広がっていく様子を見ながら必要な玩具を追加で用意した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た職員の気づき>

ひかりテーブルに身近な玩具を置いてみると、いつもと違った見え方に気づいたり、様々な遊び方を試してみようとする姿や大人には思いつかないような発想で遊ぶ姿にひかりテーブル遊びの面白さを感じた。普段から表現遊びを楽しんでいる子は次々に玩具を組み合わせた遊び方を展開していき、普段決まった遊びをする子も初めてのひかりテーブルに興味を持ち、様々な遊び方を試してみようとする姿があり、個々で遊びが広がっていく様子もみることが出来た。用意する玩具によって遊び方が変化していくことも見えた為、これからも普段の子どもたちの遊びの姿に合わせた玩具や自然物を使ってひかりテーブルでの光あそびを広げていきたい。

トンボのメガネでは2歳児の中盤では地面に反射する光にはあまり興味は示さず、メガネだから自分の目に当てるものという認識を持って遊んでいたが、後半になると影に興味を持ち、光を追う姿があり、成長過程を追ってみることが出来た。

様式（第3条関係）

東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都町田市鶴間 3-3-7 ドレッセタワー南 町田グランベリーパーク 1 階
園名	ベネッセ南町田グランベリーパーク保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光（幼児【異年齢】クラス）

<テーマの設定理由>

・カラーセロファンを使った製作などで光の見え方に興味を持っていたため。

2. 活動スケジュール

7月・8月：カラーセロファンの製作
1月：光テーブルを使った遊びや実験

3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

光テーブル、カラーセロファン・クリア積み木・折り紙・オーガンジー・色水・虫の標本・布・ブルーシート、テープ、おままごとの玩具
光が見えやすいように暗い環境を作った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

プレジャー（3歳児）：クリア積み木から遊びが広がった。個々に光りそうなものを探して光テーブルに置いてみたりした。

アクティブ（4歳児）：色のついた大きな布、ブルーシートをかぶせて入ってみた。影を楽しんだ。

チャレンジ（5歳児）：クリア積み木から始まり、色が重なっていく様子を楽しんだ。折り紙を折ることで普段と違う感覚を感じた。絵具を使って色水を作り、光テーブルの上に置いてみた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【プレジャー】

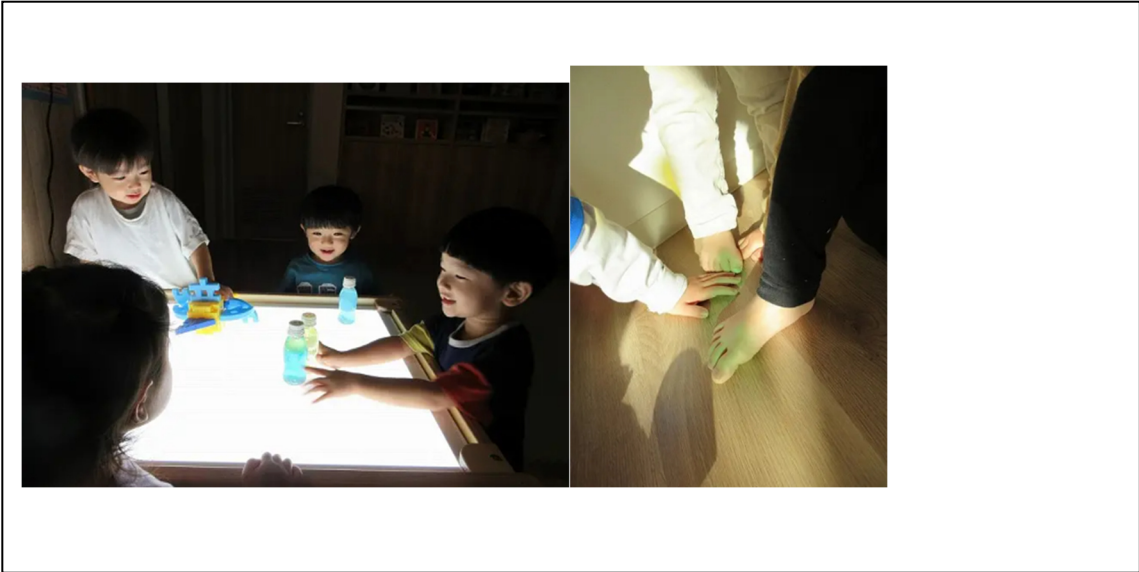
始めはクリア積み木をテーブルに置いてきれいに光ることを楽しみながら遊び、次第に「このおもちゃは？」と普段自分たちが遊びで使っている玩具をそれぞれ持ってきて光テーブルにのせてみる様子が見られた。様々なものを光らせる実験を行う中で、「これは光らないね」「これは光った！」と光らないと思ったものが光り、新しい発見があった。

【アクティブ】

普段遊んでいる玩具など、様々なものを光テーブルの上に置いてみて、どのように光るか実験をして楽しんでいた。色のついた布やブルーシートを光テーブルにのせてみると、オレンジ色の布は「燃えているみたい」と布が光っていたが、布の中に入ってみると布は光らずあまり変わらないことに気付いた。ブルーシートをかぶせて中に入ると、中に入った人が動くとき影になって映ることに気づき、手をシートにかざして遊んでいた。

【チャレンジ】

クリア積み木を重ねていくと、高くなっていくにつれて光が弱くなっていることに気づき、なぜだか考えてみると「厚さが違うんじゃない？」と意見が出て、光テーブル一面に一段ずつ積み木を並べてみる姿があった。高くではなく平たく並べると、全体がきれいに光った。折り紙を並べて、1枚ずつ重ねていくと、色に変化していくことに気が付き、「何色と何色を混ぜたらどうなるかな？」と実験している様子が見られた。その後「絵の具でもやってみたい」という意見がでたため保育者が絵の具と透明容器を用意すると、自分たちで色を混ぜながら色の移り変わりを楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た職員の気づき>

- ・始めは保育者が環境や材料を準備したが、遊んでいくうちに子どもたちからアイデアが沢山出てきて遊びが広がっていった。
- ・学年によって扱う材料を変えたり、遊び方を変えたことで、その学年らしい気づきや発見があった。自分たちで工夫して取り組む姿が見られた。
- ・光テーブルにクリア積み木を重ねていくことで、子どもたち自身で光の通り方や色の移り変わりなどに気付く姿が見られた。
- ・いろいろな素材のものを使うことで、材質の違いに気付く姿が見られた。
- ・職員も加わり、子どもたちの発見や感動に共感することで、興味関心が大きく広がり、実践を通して探求心が大きく育っていったと感じる。また共通の話題を持つことで友達とのかかわりも人とのかかわりも広がった。
- ・子どもたちが自分で気づいて取り組む姿を見て、保育者が意図を持って見守る、待つ姿勢を持つことの大切さに改めて気づかされた。